

# 第3学年国語科学習指導案

日 時 平成21年10月 14日(水) 5校時  
児 童 男3名 女5名 計8名  
授業者 高橋 純子

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう (光村3下)  
教材名 主教材「すがたをかえる大豆」「食べ物はかせになろう」  
補助教材 そだててあそぼうシリーズ (農文協) 他

## 2 単元について

### (1) 児童観

児童はこれまで、3年生教材「ありの行列」で「段落」という言葉を知り、「問いと答をみつけること」「順序や時間の経過を表す言葉に気を付けること」「中心となる文をみつけること」を学んだ。また、「おもしろいもの、見つけた」では、相手意識や目的意識をもち、知らせたいことを整理して書く学習もしてきた。これらの学習を通し、繰り返し使われている言葉が大切な役割をしていることやそれぞれの段落には中心となる言葉や文があることが分かってきている。さらに、知らせたい情報を収集したり選択したりして書く力もついてきている。しかしながら、中心となる言葉や文を的確にとらえたり伝えたいことが伝わるように組み立てを考えて書いたりすることのできる児童は少ない。

昨年度1月に実施した第2学年での国語の学力検査(CRT)の結果では、4つの観点とも全国平均は上回っているが「読むこと」の省略された主語を問う問題では12.5%(全国の正答率37%)と落ち込みが見られた。

### (2) 教材観

本単元は、段落や中心となる語句などに着目しながら読み取る説明的文章の「すがたをかえる大豆」と調べたいものを選びそれに関する情報を集めて文章にまとめる「食べ物はかせになろう」の2つの構成から成りたっている。

「すがたをかえる大豆」は、身の回りに数多くある大豆や見ただけでは大豆からできているとは思われない加工品について取り上げた教材である。児童にとって意外性があり驚きをもって読み進めるものである。また、段落ごとの中心語句、中心文が明確で要点がとらえやすい。そして、段落相互の関係をとらえる学習にも適した教材であると考ええる。

「食べ物はかせになろう」は、読みの学習で身につけた力をもとに、身近な食べ物について疑問に思ったことや興味を持った事柄を様々な本で調べ、調べた情報を選択して段落ごとに分けて書き文章にまとめる学習である。これは、本から読み取ったことをもとに、自分の考えを適切に表現できる学習に適した教材であると考ええる。

### (3) 指導観

本単元では、段落相互の関係を考えながら文章の内容を的確に理解する力、調べたことを文章にまとめる力を身につけさせたいと考える。そのために、各段階において以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」段階では、学習のゴールを「食べ物はかせになろう」とし、食べ物が姿を変えていくことを段落ごとにまとめ、発表するという目的意識をもたせる。また、相手意識をしっかりともたせて学習を進めていくことを知らせる。

「ふかめる」段階では、各段落の接続語や指示語、中心語句などに着目させ「大豆をおいしく食べる工夫」を叙述に即して内容を正しく読み取らせていく。そして、その工夫によってできた食品については、写真と照らし合わせながら確認し、確かな読みにつなげていく。さらに、文章構成を確認するという活動を位置づけることにより、段落相互の関係を考えながら内容を理解する力を身につけさせていく。

「ひろげる」段階では、「すがたをかえる大豆」で学んだことを生かし確かなものとするために、疑問や興味をもった食べ物について文章にまとめる活動を行う。「話題提示」「事例」「まとめ」という文章構成や段落相互を関係づける接続語を意識させながら、図書資料等で調べたことをまとめさせていく。

本校が作成した指導内容系統表において、本単元で重点的に指導する項目は、語⑧「接続語の働きを考えることができる」、要③「段落の要点をまとめることができる。(小見出し)」、構④「「初め」「中」「終わり」の文章構成をとらえることができる」である。

### 3 単元の指導目標・評価規準

#### (1) 主目標

◎中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読み取り、身近な食べ物について調べ、説明的な文章を書く。

#### (2) 観点別目標と評価規準

観 点	目 標	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	○食べ物について書かれた読み物や図鑑などに興味をもって読もうとする。 ○伝えたいことが明確になるように、段落相互の関係に注意して書こうとする。	①食べ物に関心をもち書かれている事柄に興味を持って読もうとしている。 ②段落どうしのつながりを考えて文章を書こうとしている。
読む能力	◎中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章の内容を正しく読み取ることができる。(イ) ◎内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読むことができる。(エ)	①段落の中心となる語や文に気づき、要点を短くまとめている。 ②書かれている内容や接続語の役割等から、段落のつながりを考え、大きなまとまりをとらえている。
書く能力	◎調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択したりすることができる。(ア) ◎自分の考えが明確になるように、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。(イ)	①目的や相手を意識し、書く必要のある事柄を取捨選択して書いている。 ②書こうとするものの中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書いている。
言語活動に関する知識・理解・技能	○文章全体における段落の役割を理解することができる。(イ(ク))	①指示語や接続語の役割を理解しながら段落相互のつながりをつかんでいる。

### 4 単元の指導・評価計画 (17時間)

段階	時間	目 標	学 習 活 動 (・主な学習活動 ※指導上の留意点)	評 価 規 準 (評価方法)
つかむ	1 2	「食べ物はかせになろう」に興味をもって読み、ゴールの見通しをもつことができる。	<u>食べ物はかせになろう。</u> ・ 「食べ物はかせになろう」の全文を読む。 ・ 調べることを決めるための手順を知る。 ・ 本で調べる方法を知る。 ・ 調べたことを書き出し、整理して文章にまとめる方法を知る。 ・ 学習計画を知り、見通しをもつ。 ・ 新出漢字の読み書きや意味調べをする。 ※ 学習計画を示すことで食べ物はかせになることへの見通しをもたせる。 ※ 相手意識(4年生)を明確にさせる。	[関①]「食べ物はかせになろう」を読んで大体的手順をつかんでいる。(ノート、発言) [関①]本で調べることや学習計画を知り、学習の見通しをとらえている。(挙手、観察)
ふかめる	3	「すがたをかえる大豆」を読み、大豆を使った食品について興味をもち、感想を書くことができる。	<u>大豆について知っていることや感想を発表しよう。</u> ・ 大豆について知っていることや大豆を使った食品について知っていることを発表する。 ・ 全文を読む。 ・ 形式段落に番号をふる。 ・ 大きく3つのまとまりに分ける。(話題提示・事例・まとめ) ・ 感想を書き、交流する。 ※ 本文中の食品と挿絵や写真を対応させる。	[関①]「すがたをかえる大豆」に興味をもって読み、感想を書いたり発表したりしている。(ノート、発言)

	4	筆者の提示した話題について読み取ることができる。	<p>話題ていじのだん落を読み取ろう。①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆とは何か、なぜおいしく食べるくふうをしているかを読み取る。</li> <li>※ 大豆とは何か、なぜ工夫が必要なのかについてサイドラインを引きながらまとめさせる。</li> </ul>	〔読①〕筆者の提示した話題について読み取っている。(ノート、発言)
	5	おいしく食べる工夫の事例を読み取ることができる。	<p>事れいのだん落を読み取ろう。③④⑤⑥⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おいしく食べるくふうとその食品について表に整理しながら読み取る。</li> <li>※ 接続語「次に」「また」「さらに」と「いちばん」「これらのほかに」「くふう」という語句を手がかりに読み取らせる。</li> </ul>	〔読①〕おいしく食べる工夫や食品について正しく読み取っている。(ノート、発言) 〔言①〕接続語の役割を理解しながらつながりをつかんでいる。
	6	大豆のよさや筆者の感想を読み取ることができる。	<p>まとめのだん落を読み取ろう。⑧⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの食べ方が考えられた理由と筆者の感想を読み取る。</li> <li>※ 「このように」という語句を手がかりに、⑧⑨段落が大豆のよさや筆者の感想について書かれていることを確認させる。</li> </ul>	〔読①〕大豆のよさや筆者の感想について読み取っている。(ノート、発言)
	7	文章構成を確認し大豆のすばらしさについてとらえることができる。	<p>かんそうを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成を確認する。</li> <li>大豆のすばらしさについて感想を書く。</li> <li>※ 初発の感想と比較させ大豆のすばらしさをとらえさせる。</li> </ul>	〔読②〕文章のまとまりをとらえ大豆のすばらしさを読み取っている。(ノート、発言)
ひろげる	8	選んだ食べ物と調べることを決めることができる。	<p>食べ物を選び調べることを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「すがたをかえる大豆」を学習して、もっと知りたい身近な食べ物について決める。</li> <li>調べることを決める。</li> <li>※ 決めたことはカードに書かせる。</li> </ul>	〔書①〕調べることをカードに書き出している。(カード、観察)
	9 10 11 12	調べたことを書き出すことができる。	<p>調べたことをカードに書き出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ食べ物の本をおおまかに読み、調べることが書いてあるところに付箋紙を貼る。</li> <li>付箋紙のところを読み、そのまま書き写すのではなく大事などころを書くことや調べた本の名前、出版社名、出版年を書くことも知らせる。</li> <li>分からない言葉は国語事典で調べ分かりやすい言葉に直すことも知らせる。</li> <li>カードに調べたことを書き出していく。</li> <li>「話題提示」の部分の文章を書く。</li> <li>※ 事前に教室に本を何冊か準備しておく。</li> <li>※ カードに書くときは必要などころや大事などころを絞って書かせるようにする。</li> </ul>	〔関①〕必要な本を読み、付箋紙を貼っている。(観察) 〔書①〕本から大事なことを書き出している。(カード)
	13 本時	食べ物のことが相手によく伝わるように、段落相互の関係を考えて文章を構成することができる。	<p>事れいの部分のだん落のじゅん番を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「事例」の順番を決めその理由を明らかにする。</li> <li>「事例」のつなぎ言葉を決める。</li> <li>※ 「すがたをかえる大豆」の中の並び順を振り返らせてから自分のカードの順番を決めさせる。その際、中の順番の理由を明確にさせる。</li> <li>※ 既習の接続語を参考にしながら接続語を決めさせる</li> </ul>	〔書②〕相手によく伝わるように、段落相互の関係を考えて文章を構成している。(観察、ワークシート、発言)

14	段落相互の関係に気をつけて文章を書くことができる。	<p>カードを見ながら文章を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「まとめ」の部分の文章を書く。</li> <li>・ 「話題提示」「事例」「まとめ」の順に下書きしていく。</li> <li>・ 題名も決める。</li> </ul> <p>※ 後で文章構成を推敲しやすいように、下書き専用の原稿用紙1枚に1段落ずつ1行とびで書かせる。</p> <p>※ 相手が4年生なので丁寧語で書かせる。</p>	[書②] カードをもとに段落と段落の続き方に注意して書いている。(下書き用原稿用紙、観察)
15 16	書いた文章を交流し合い、より分かりやすい文章へと改善することができる。	<p>書いた文章を見直そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誤字脱字はないか、難しい言葉はないか、説明を加えるところはないかなどに着目して自分や友だちの書いた文章を読む。</li> <li>・ 下書き用原稿用紙に書き加えたり、感想やアドバイスを書いたりして班で交流し合う。</li> <li>・ 清書する。</li> </ul> <p>※ よいところやアドバイスするさいに、叙述だけではなく構成についても書けるように指示する。</p> <p>※ 感想やアドバイスするときに気づけない場合は教師が個別に対応する。</p> <p>※ 清書するときは必要に応じて絵や図を入れさせる。</p>	[書②] 接続語や文末表現、習った漢字を使っているかなどに気をつけて推敲し、それをもとに清書している。(下書き用原稿用紙、作品、観察)
17	相手に伝わるように文章を発表することができる。	<p>作品を発表し自分の考えを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完成した作品を4年生に向けて発表する。</li> </ul> <p>※ 評価の観点を示した相互評価カードを準備し4年生がよさを見つけながらコメントを書けるようにさせる。</p>	[関①] 作品を読み、食べ物について考えようとしたり、友だちの文章のよさに気づいたりしている。(評価カード、発言)

5 本時の授業（第13時）

(1) 目標

食べ物のことが相手によく伝わるように、段落相互の関係を考えて文章を構成することができる。

(2) 展開（ ）は主発問）

段階	学習活動	支援と評価	備考
つかむ 3分	1、前時の振り返りと本時の活動を確認する。 2、本時の学習課題を確認する。 事れいのじゅん番を考えよう。	・本時は、「すがたをかえる大豆」の文章構成をもとに、「事例」の部分の順番と接続語を決める時間であることを伝える。	
ふかめる 37分	3、「事例」の部分の順番を決める。 ・「すがたをかえる大豆」の「事例」の並び順を振り返る。 ・「事例」の部分の並べた順番の理由をワークシートに書く。(一人学び) ・ペアで発表しあう。 「事例」の部分はどんな順番で知らせたいですか。 ・「事例」の順番とその理由を発表する。(学び合い) 4、「事例」の部分をつなぎ言葉でつなげる。 ・既習のつなぎ言葉を確認する。 ・付箋紙につなぎ言葉を書いて貼っていく。(一人学び) ・段落ごとのつなぎ言葉を発表する。 5、課題についてまとめる。 ・形ある物からない物に書いていくことと順序性のあるつなぎ言葉を使うことを確認する。	・「事例」の部分の五つの工夫は、簡単な加工法から難しい加工法の順に進んでいることの確認をさせる。 ・「事例」の部分のカードを動かし順番を決めさせる。その際、並べた理由を明確にするためにワークシートに書かせる。 ・迷っている子がいたらその子の順番をみんなで考えさせ、いない場合は教師の例で考えさせる。 ・順序を表す接続語の中から選ばせる。 [書②] 相手によく伝わるように、段落相互の関係を考えて文章を構成している。(ワークシート、観察、発言)	掲示物  ワークシート
まとめ 5分	6、本時の学習を振り返る。 ・自己評価を行う。 ・本時の学習で分かったことや感想を書く。 7、次時の学習内容を知る。	・分かったことや生かしたいことを簡単にまとめさせる。 ・この授業についての感想を接続語を使って書かせる。(家庭学習) ・「まとめ」の部分を考え「話題提示」「事例」「まとめ」の順で文章を書くことを知らせる。	評価カード

(3) 板書計画

大事なことをたしかめよう  
食べ物はかせになろう

事れいの部分のだん落のじゅん番を考えよう。

すがたをかえる大豆の事れいの部分  
 形ある物 目に見える物 知っている物

← 形ない物 目に見えない物  
 ← 知らない物 びっくりする物

--	--	--	--

◎じゅん番のれい

⑦	⑥	⑤	④	③
---	---	---	---	---

◎つなぎ言葉

- いちばん分かりやすいのは
- 次に
- さらに
- これらのほかに

--	--	--	--

- はじめに
- 次に
- そして
- さいごに

- 一つ目は
- 二つ目は
- 三つ目は
- さいごは

○形ある物から形ない物へとつなげていく。  
 ○じゅんじょよくつなぎ言葉を使う。

6 座席表

黒 板


7 補助教材

そだててあそぼうシリーズ (農文協)

- 1 トマトの絵本
- 6 イネの絵本
- 7 ムギの絵本
- 9 ダイズの絵本
- 23 コンニャクの絵本
- 30 カキの絵本
- 45 ブドウの絵本
- 54 リンゴの絵本
- 55 ミカンの絵本
- 66 アズキの絵本
- 71 ソラマメの絵本他

大豆は、おいしく食べる工夫をされながらいろいろな姿で毎日食べられている。その良さに気付き、食事に取り入れてきた昔の人々の知恵に驚かされる。									要旨	
まとめ		五つの工夫の説明					話題提示		段落	意味
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	段落形式	
	・このよ うに その	・これら のほか に	・さらに それ	・また これ その	・次に	・いちば ん分 かり やす いの は	これ その	それ	・接 続語 指 示語	
大豆のよいところに気付き、食事に取り入れてきた昔の人々のちえにおどろかさされる。		多くの食べ方が考えられたのは、味もよく、えいようをふくみ、やせた土地にも強く、育てやすいからである。	とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方がある。	目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうがある。	大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうがある。	こなにひいて食べるくふうがある。	大豆をその形のままいつたり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうがある。	大豆は、そのままでは食べにくく、消化もよくないので、いろいろ手をくわえて、おいしく食べるくふうをしている。	大豆は、いろいろな食品にすがたをかえていることが多いので気付かれない。	要 点
よいところ、昔の人々のちえ	味 えいよう 育てやすい	くふう、ゆでる、えだ豆、もやし	ちがう食品、くふう、ナットウキン、なつとう、コウジカビ、みそ、しょうゆ	ちがう食品、くふう、すりつぶす、しぼり出す、とうふ	くふう、ひくきなこ	いちばん分かりやすいくふう、いる、にる豆まきの豆、に豆、黒豆	大豆 くふう	大豆	中心語句	

